

(1) エシカル消費とは

エシカル消費の定義

エシカル消費とは、人や社会、環境のことを考えた消費行動のことです。エシカルとは英語で「倫理的な、道徳上の」を意味する言葉で、日本では消費者基本法に基づく消費者基本計画の中で、「地域の活性化や雇用なども含む、人や社会、環境に配慮した消費行動」として定義されています。消費者それぞれが、各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うことともいえます。

倫理的消費（エシカル消費）とは

「地域の活性化や雇用なども含む、人や社会、環境に配慮した消費行動」（消費者基本計画）

消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うこと

エシカル消費と消費者市民社会

エシカル消費が注目されるようになった背景には、「消費者市民社会」の考え方があります。消費者市民社会とは、2012年の消費者教育推進法に定義された用語で、私たちの消費が個人的なものではなく、多方面に与える影響を自覚して行動し、公正かつ持続可能な社会の形成に積極的に参画していくことの重要性を示したものです。中学校学習指導要領解説技術・家庭編の108頁にも内容「C 消費生活・環境」の解説として、「消費者市民社会の担い手として、自覚をもって環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎を培う」ことが示されています。

この消費者市民社会に向けた消費者の具体的な行動例として、エシカル消費があります。今だけでなく将来世代のこと、国内に限らず国外の社会情勢、地球環境に配慮した消費行動が重要視されています。

※消費者市民社会とは、消費者が、個々の消費者の特性及び消費生活の多様性を相互に尊重しつつ、自らの消費生活に関する行動が現在及び将来の世代にわたって内外の社会経済情勢及び地球環境に影響を及ぼし得るものであることを自覚して、公正かつ持続可能な社会の形成に積極的に参画する社会をいう。

エシカル消費とSDGs

近年では、2015年に国連で採択されたSDGs（Sustainable Development Goals / 持続可能な開発目標）との関連でも、エシカル消費は注目されています。SDGsとは、2030年に向けて飢餓や貧困、エネルギー、気候変動、平和的社会などの17の目標と169のターゲットから構成され、誰一人取り残さない社会を実現するため変革を目指すものです。

エシカル消費は、消費者の行動によって、公正で持続可能な社会を目指す取り組みとして注目されており、すべての目標に関連があります。特に、目標12「持続可能な生産消費形態を確保する」（つくる責任つかう責任）では、生産者と消費者の責任が明示されており、より直接的に関わる目標として注目されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



エシカル消費とESD

ESDとは、持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development）の意味で、一人ひとりが世界の人々や将来世代、また、環境との関係性の中で生きていることを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動を変革するための教育のことです。SDGsの目標4においても、全ての学習者が持続可能な開発を促進するための知識及び技能を習得できることが設定されています。ESDには、さまざまな課題設定がありますが、諸課題に対し、消費者の立場から、公正で持続可能な社会に向けた解決策を検討する取り組みは、消費者市民社会実現に向けた消費者教育（消費者市民教育）です。

例えば、「海洋プラスチックを減らすにはどうしたらいいか」といった課題に対して授業で話し合う場合に、私たちの消費行動に目を向けて、ペットボトルの消費量を減らしマイボトルを持参するといった提案が出てきたとしましょう。

これはまさに、公正で持続可能な社会に向けた消費行動であるエシカル消費の具体例を生徒が検討したといえます。つまり、課題解決に向けた行動を主体的に考える結果、逆にエシカル消費を避けて通ることは難しく、自然とエシカル消費の考え方を学習しているといえます。

エシカル消費と商品の一生

私たち消費者は、店頭で商品を手にとるとき、その商品がどこで、誰が、どのように生産しているのか、またその商品がどのように店まで運ばれてきたのかといった情報がわかった上で購入するケースばかりではありません。例えばスーパーの店頭で「〇〇県産のキャベツ 198円」といった場合には、県名と価格はわかっていてもそれ以上の情報が明示されていないため、消費者はその野菜の新鮮さや量などの情報で選んでいるといえます。

私たちが商品を選択する場合、まず「この商品は、どうやってきて、どこに行くんだろう」と

と消費者が商品の一生（生産、流通、消費、廃棄）という視点で商品の背景について、立ち止まって考えてみるのが重要です。店頭には多種多様な商品が並んでいますが、現代は分業の時代であり、商品が店頭で並ぶまでに、原材料となる一次産品を生産する農家、それを加工・製品化する事業者、商品を店頭へ運ぶ輸送業者など、実に多くの人が関わっています。

次に、商品の一生の各場面で、問題となっていることはないか考えます。例えば、生産現場において、農薬が散布されているコットン畑で子供が綿花を摘んでいたり、チョコレートの原材料カカオの生産に子供の労働力が使われているなど、いわゆる児童労働の問題が潜んでいる可能性があります。また、商品の原材料が海や森などの自然環境や生態系を破壊してとられている可能性も潜んでいます。それらを加工する段階でも、適正な価格で取引が行われず、貧困の連鎖から抜け出せない人たちもいます。

流通の段階では、効率的な配送が行われず、トラックなどから地球温暖化の原因とされる二酸化炭素が大量に放出されていることもあります。

廃棄の段階では、本来食べられるのに捨てられてしまう食品（食品ロス）や、商品を包装しているプラスチックのごみが半永久的に自然に残り、人間を含む生態系にも悪影響を与えることが指摘されています。

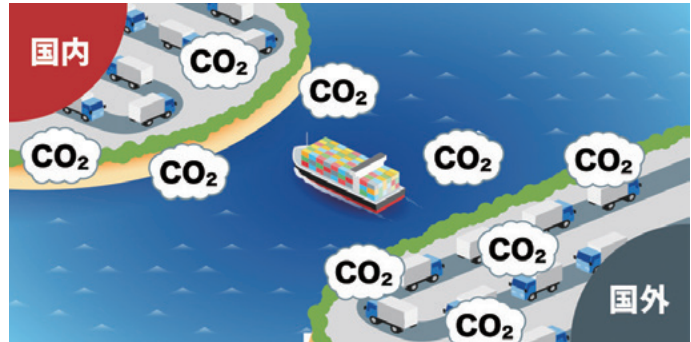
このように私たちが普段なにげなく手にとる商品が、実は、店頭で並ぶまでの各段階で問題を抱えている可能性があるのです。

エシカル消費が未来を拓く

そこで、消費段階で私たち消費者がエシカル消費によって、社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題の解決に取り組む事業者を応援することが重要な意味をもつのです。まさに、「あなたの消費行動が世界の未来を変える可能性を秘めている」といえます。

現状では、エシカル消費に必要な情報が十分にあるわけではありません。そのため、商品の一生を踏まえて知りたいと思うことは積極的に聞いて情報収集したり、マークを目安に選択したりすることも大切です。また、「地球にやさしい」といった広告など、根拠が明確でない場合には、「本当にそうなのか」といった批判的思考力をもって選択する（選択しない）ことも、消費者として重要なことです。

公正で持続可能な社会を実現するために、消費者にできることはたくさんあります。自分の生活に取り入れることで、楽しいこと、心地よいことから、少しずつ継続していくことが大切です。



効率的な配送が行われず、船やトラックなどから地球温暖化の原因とされる二酸化炭素が大量に放出されていることもあります。

(2) エシカルスーパーで取り扱っているエシカル消費

ここでは、本教材でどのような視点からエシカル消費を取り扱っているのか、そのポイントを簡潔に紹介します。

①持続可能な漁業

海の恵みである魚や貝などの水産物は、乱獲や海の環境を壊すような漁業等が問題となっています。そこで、海の環境を守り、持続可能な方法で営んでいる漁業や水産養殖に対し、国際認証マークを設けています。

②公正な取引（フェアトレード）

途上国では価格を抑えるため、児童労働や正当な対価が生産者に支払われない問題や、生産性を上げるために必要以上の農薬が使用され生産者の健康と環境に悪影響を及ぼす問題等が起きています。フェアトレードとは、途上国で作られた作物や製品を適正な価格で継続的に取り引きをすることによって、生産者の持続的な生活向上を支える貿易の仕組みです。

③豊かな森と持続可能な林業・農業

豊かな森林は多様な生き物の住み家です。その森林が違法伐採や商業伐採、農地への転用などにより急速に減少し、生物多様性や気候変動に悪影響を及ぼすことが問題となっています。そこで、適切な森林管理をした木材で作られた商品や、その地域で持続可能な農業を営んでいる農園に対し、国際認証マークを設けています。

④安全で持続可能な農業（GAP 認証制度）

GAPとは消費者、生産者、環境によい農業の認証制度で、食品の安全や、自然環境の保全、生産者の労働安全や人権の保護に配慮し、将来的に持続可能な農産物の供給の実現につながる取り組みのことです。GAPにはJGAP、ASIA GAPや、グローバルGAP等の種類があります。オリンピック・パラリンピックの選手村での食事はGAP認証の農産物が提供されます。

⑤地産地消

地元でとれた農作物や水産物等を地元で消費することです。地元の生産者を応援することで地域経済に貢献するとともに、輸送によるエネルギーを抑えることになりCO₂削減につながります。

⑥応援消費（被災者支援、障害者支援）

応援消費は、消費者が買い物を通じて、商品の生産地や生産者を応援することです。地産地消もその一つです。他に、災害による被災者の復興を支援するために、その地域で作られた商品を購入したり、障害者の自立支援のために、障害者が作成した商品を購入する方法等があります。

⑦エネルギー効率を考えた輸送・共同配送（グリーン物流）

商品が店舗に届くまでの輸送方法について、CO₂排出量が少ない鉄道や船などの利用を推進することです。例えば、輸送方法をトラックから鉄道利用に変更することで91%、船舶利用なら84%もCO₂排出量を削減することができます（2017年国土交通省データ）。このような動きをモーダルシフトと呼びます。また、同じ届け先に向かう配送を共同で行う仕組み（共同配送）なども、CO₂を排出するトラックの台数を減らすことになり、地球温暖化対策に寄与しています。

⑧食品ロスの削減

本来食べられるのに捨てられてしまう食品（食品ロス）は、日本国内で年間643万トン、日本人が毎日お茶碗1杯分を捨てているのと同じです。その一方で、飢餓や貧困で苦しんでいる人もいます。この問題を解決するため、食品ロスの削減が求められており、家庭内での工夫に加えて、スーパーの店頭でもできることがあります。例えば、棚に並んでいる商品を手前から取ったり、すぐに消費するのであれば賞味期限が近い商品を購入したりするなど、消費者の買い物の方法で、廃棄する食品を減らすことができます。

⑨リサイクル

プラスチックの過剰包装やレジバックなど、限られた貴重な資源が使い捨てにされています。最近では、海にプラスチック製品が流れ込み、マイクロプラスチックとして海の生態系に与える影響が懸念されています。捨ててしまえばごみですが、再利用をすれば貴重な資源になります。できるだけごみを出さない買い物の工夫が必要です。

また、リサイクルができるものについては、リサイクルのための分別収集識別マークが付いているので、マークの意味を正しく理解し、分別できるようになることが大切です。

【本教材で取り扱っているマーク一覧】

マーク	内 容	マーク	内 容
	ASC ：養殖場での排水や廃棄物による汚染防止、養殖のために持ち込まれる魚の乱獲を防止するなどして、海などの環境や地域社会や人に配慮した、責任ある養殖によって生産された水産物であることを第三者が認証した商品に付けられる。		国際フェアトレード認証ラベル ：開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することや、人権や環境へ配慮することなど、公平で持続可能な生産と取引によって作られたことを第三者が認証した商品に付けられる。
	MSC「海のエコラベル」 ：小さい魚や他の生物をとらないよう目の粗い網を使用したり、漁獲量や漁の時期に配慮したりするなど、持続可能な漁業でとられた水産物であることを第三者が認証した商品に付けられる。		GOTS（オーガニック・テキスタイル世界基準） ：有機栽培（オーガニック）のコットン、ウール、麻、絹などの原料から、環境・社会面に配慮した方法で作られた繊維製品に付けられる。 ※有機栽培（オーガニック）とは、農薬や化学肥料、遺伝子組換え技術を使わないなど基準を満たして栽培した農産物のこと。
	MEL ：魚をとりすぎない漁業や養殖での環境保全など、生態系と持続可能性に配慮した漁業や養殖業から生産されたことが認められた商品に付けられる。日本生まれの第三者認証制度。		再生紙使用マーク ：印刷物など再生紙を使用している商品に付けられる、古紙パルプ配合率を示すマーク。数字は古紙パルプの割合を示している。
	エコレールマーク ：商品を輸送する際、貨物鉄道を長距離利用した商品に付けられる。輸送手段に鉄道を積極的に利用すると、トラックなどに比べてCO ₂ 排出を削減するため、「環境に配慮して生産した商品」と考えられる。		エコマーク ：「生産」から「廃棄」にわたるライフサイクル全体を通して、環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品に付けられる。幅広い商品（物品、サービス）が対象で、文房具や制服、建築材、スーパーマーケットなどがある。
	GAP 認証 ：GAP（ギャップ）とは、「Good（良い）Agricultural（農業）を Practice（実践）する」の略。食品安全、環境保全、労働安全等に取り組んでいると、第三者が認証した農場に与えられる。日本では、GLOBAL G.A.P.、ASIAGAP、JGAPなどがある。左記のマークはJGAP。		牛乳パック再利用マーク ：使用済み牛乳パックを原料として使用した商品に付けられる。
	ノウフク JAS ：「ノウフク」とは、「農業」と「福祉」を合わせた造語で、「ノウフク JAS」とは、JAS 法に基づく国家規格の一つ。障害者が農林水産業の生産行程に携わった生鮮食品とその加工食品であることを第三者が認証した商品に付けられる。		グリーンマーク ：原則として古紙を 40% 以上利用して作られた商品に付けられる（ただし、トイレットペーパー、ちり紙については 100%、新聞用紙、コピー用紙については 50%以上利用）。
	FSC® 認証 ：森の動物や植物、そこで働く人たちが、暮らす人たちに配慮し、将来も豊かな森を維持できるようにするなど、適切に管理された森林の木材から作られたことを第三者が認証した商品に付けられる。		リサイクルのための分別収集識別マーク ：使い終わった後、分別収集する際に目安となるマーク。自治体によって回収方法が違うので、自分が住んでいる地域のリサイクル情報を確認することが大切である。
	レインフォレスト・アライアンス認証 ：環境・社会・経済面について決められた基準を守り、より持続可能な農業を行っている農園であることを第三者機関が認証する。認証された農園で作られた商品にマークが付けられる。		